

## 日本赤十字社東京都支部と連携した防災講話・防災体験

日本赤十字社東京都支部 事業部救護課より3名の講師をお招きし、日本赤十字社と連携した防災講話と体験セミナーを実施しました。運動部所属の57名の生徒が参加しました。東日本大震災の地震発生後の様子について時間経過を追って振り返り、被災者の方の生活環境や避難所で必要な支援について考える機会になりました。厳しい生活環境について被災者の立場になって考えてみることや高校生として協力できる支援について学ぶことができました。

### (講話の内容)

- ・日本赤十字社の活動について
- ・首都直下型地震への備え
- ・避難所生活において必要な知識や支援
- ・ホットタオルの作成、毛布を使用した担架や保温用のガウンの作成についての実技講習



### (実技講習内容)

ホットタオルの作成 (タオル2枚、ビニール袋1枚、紙コップ1杯分の熱湯を使用)

ビニール袋にタオルを1枚入れて、紙コップの熱湯をかける。もう一枚の乾いたタオルで袋ごと巻いていき中の空気をうまく抜いて押さえる。少量のお湯でホットタオルを作成できることを学んだ。蒸らした後にホットタオルを袋から出し、顔や体に当ててみて、体を温めてリラックスする効果を体感した。



### 毛布を使用した担架（毛布1枚使用）

10人で1グループに分かれて、生徒一人が傷病者役となった。毛布に傷病者を寝かせて、搬送者が毛布の端を丸めていき、即席担架の準備を行った。リーダー役が声かけして、持ち上げ搬送した。リーダー役の生徒の声かけがしっかりできており、安全に搬送ができた。担架がない状況下でも毛布1枚と人的な支援があれば傷病者を運べることを学んだ。



### 毛布を使用したガウンによる保温（毛布1枚、ビニールひも1本使用）

傷病者役の生徒が毛布を一枚羽織り、紐で腰に固定する。腰回りに毛布を弛ませ毛布が重なるような巻き方で保温した。腰回りの弛ませ方が難しかったが、講師の先生の指導を受けて上手に完成させ、傷病者の保温について学ぶことができた。

